

令和6年8月28日

指導第二課

教科書展示における閲覧者からの質問等について

教科書展示会場の受付場所に設置した質問等を記入する用紙（A6版）に書かれた内容を転記した。

1 質問等記入用紙に書かれた件数

総数 39件

- | | |
|---|----------------------------------|
| { | ・ 教育センター展示：26件（6月14日（金）～7月3日（水）） |
| | ・ 中学校等展示：13件（6月14日（金）～8月2日（金）） |

2 質問等記入用紙に書かれた内容

(1) 採択について

- 現場の教職員の声を聴いて議論してほしいです。
- 民主的、科学的によく考えて選んでほしいです。

(2) 教科書展示会について

- 教科書展示は学校だけでなく公民館や図書館にも展示して、土日でも見られるようにしてほしいと思います。
- （巡回展示に行くと、教科書が段ボール箱の中に収まっていたので）箱の中から出しておいていただけるとありがたいと思いました。
- 教職員の方々は見る時間があるのでしょうか。
- 見に来られる人は少ないのでしょうか。
- 予約して展示会に行けたのでよかったです。

(3) 教科書について

- どの教科書もカラーが多く見やすいが、重たいです。

(4) 教科について

① 社会科について

【教科全体に関する内容について】

- 東京書籍は、二次元バーコードがたくさんあり、これを把握することが大変であると感じました。しかし、使い方次第で探究できるのではないかと感じました。とはいえ、取り扱いが大変な気がします。
- 大事な教科書なので真実に基づいた正しいものであって欲しいです。
- 歴史については、事実に基づいて、日本の負の歴史についても学べる教科書が良いのではないかと思います。
- 歴史の教科書について、検定の基準がよく分かりません。神話の事を強調した歴史観、日本国憲法の制度がGHQの力によって、妨害されたかのような記述が私からしたら正しいものとは思えず、どの様な基準でチェックを入れられたかどうか、もう少し市民にもわかるように知らせてほしいです。

【社会科 歴史的分野について】

東京書籍株式会社について

- 広島関係の記述が非常に少ないのが残念です。
- 戦後初の議会に女性が含まれていたこと、審議が4か月されたこと、国民主権の明記、生存権の明記など、重要な修正がされたところを記述している。押しつけと一方的に決めつけていないところが評価できる。
- 大日本帝国憲法の女性の選挙権について記述がない。
- 原爆投下理由、放射能被害、被曝の実態の記述がない。

教育出版について

- 戦後初の議会に女性が含まれていたこと、審議が4か月されたこと、国民主権の明記、生存権の明記など、重要な修正がされたところを記述している。押しつけと一方的に決めつけていないところが評価できる。
- アメリカが原爆投下した理由がなく、被害状況も数字だけで内容もやや少なめであるが、特設ページで資料館、文学作品などに触れ、体験を通して、戦争を考えさせる工夫は、主体性を育てる上で重要である。

帝国書院について

- 戦後初の議会に女性が含まれていたこと、審議が4か月されたこと、国民主権の明記、生存権の明記など、重要な修正がされたところを記述している。押しつけと一方的に決めつけていないところが評価できる。
- 原爆投下の理由の説明がわかりやすく、具体例として「少女の日記」を用い、市民の悲しみが伝わる工夫をしている。核廃絶を求める気持ちが高まる工夫がされている。

日本文教出版について

- 原爆投下について、記述量は多くないが、被害状況に触れている。

自由社について

- 日本国憲法や教育基本法を反映していないと感じる。
- 天皇を中心とした神話伝説が多く採用されている。
- 記述内容に一面的なところがあると感じる。また、現在日本には外国籍の生徒が多くいる中、グローバルな内容ではないと感じる。
- 琉球処分やアイヌについての記述が一般的ではない。その他、多数の記述に疑問を感じる。
- 大日本帝国憲法を過大に評価し、日本国憲法を過少に評価して、改憲の方向に記載していると感じる。また、大日本帝国憲法の負の側面の記述がない。
- 国民主権、基本的な人権についての記述がない。

育鵬社について

- 日本国憲法を改正することを求めているような記載がある。
- 天皇を中心とした神話伝説が多く採用されている。
- 大日本帝国憲法を高く評価し、日本国憲法についてはGHQから押し付けられたものという記述になっており、子どもたちに間違った認識を与えないか心配である。
- 大日本帝国憲法を過大に評価し、日本国憲法を過少に評価して、改憲の方向に記載している。

学び舎について

- なぜ教科書展示に含まれていないのですか。
- 戦後初の議会に女性が含まれていたこと、審議が4か月されたこと、国民主権の明記、生存権の明記など、重要な修正がされたところを記述している。押しつけと一方的に決めつけていないところ

ろが評価できる。

- 原爆投下について、写真、図版、コラムが非常に充実しており、特に放射線後遺症の問題、アメリカの投下の理由について、生徒がわかりやすく考える工夫をして最も良い記述がしてあった。

令和書籍について

- 子どもには字が小さいと感じました。
- 天皇の歴史を中心につくられているように感じました。
- 天皇の権限が大きく取り上げられており、国民生活とのつながりが書かれていない。また、「大日本帝国憲法」の方が現在の「日本国憲法」より重要視されている。「日本国憲法」によって国民の権利がどのように拡大されたかも記していない。さらに、原子爆弾の取扱いについても、投下までのいきさつは詳しく述べられているにも関わらず、その結果がただ、20万人が死亡したとしか記されていない等、残念でした。
- 国語で神話を紹介するのはわかるが、歴史の中で存在が疑われる人物や話を、歴史の教科書に掲載するのはなじまない。また、掲載していない歴史があるように思う。
- 特に古代では、神話と歴史的事実が混合され、しかも目次も整備されていない。なぜ、検定を通ったのか不思議である。
- 大日本帝国憲法を過大に評価し、日本国憲法を過少に評価して、改憲の方向に記載していると感じる。
- 国民主権、基本的な人権についての記述がない。
- 人類の誕生から始めず、神々が日本列島を作ったとする古事記の「国生み神話」から始めているため、歴史と神話を混同する危険性が高い。

【社会科 公民的分野について】

東京書籍について

- 沖縄にアメリカ軍がいることが合理的であるかの誘導的な意図を感じる。
- 核兵器禁止条約について、その意義に触れず、否定的に記述してあるので被爆地広島には適切ではないように感じます。
- 福島原発について「事故が起こると大量の放射線物質が放出される可能性」と記述し、現在の被災地の被害等の深刻さが伝わらない。

教育出版について

- 日本国憲法の理念や三つの基本原則がきちんと記され、帝国議会で審議されて制定されたものであることがよくわかる。また、女性の権利についても記載がある。
- 特集で沖縄の人々の痛みや基地問題を国民全体で考えようとする内容が記載してある。
- 核兵器禁止条約の意義、日本政府の不参加への疑問、プルトニウムの増大など課題に気付かせようとしている。
- 平和、人権、多文化共生の内容が適切で豊富である。
- 憲法、自衛隊、安保、集団的自衛権について、政府見解と共に批判的な意見も記載し、健全な批判力を育てることができる。
- 核廃絶に対する日本の役割の重要性を記述し、核禁止条約を批准していない日本政府の問題を考えさせる記述がある。
- 外国人の人権保障、障害者への合理的配慮、LGBT、元ハンセン病患者への人権保障の重要性について具体例を示し、生徒が考えやすい工夫がされている。
- 原発再稼働の問題を指摘して、考えさせる方向性がある。

育鵬社について

- 大日本帝国憲法を高く評価し、日本国憲法については GHQ から押し付けられたものという記述になっており、子どもたちに間違った認識を与えないか心配である。
- 大日本帝国憲法はアジアで初めての近代憲法として高く評価されたと記されているが、負の部分が記載されていない。
- 「平和主義と防衛」では、「有事への備え」として武力攻撃事態対処法などが成立したと記載があり、前文と憲法 9 条に反する記載がしてある。また、領土問題についても視点到偏りがあるように思う。
- 大日本帝国憲法を美化しているような記述がある。現在の憲法は当時の資料によると、国会で議論、修正を行っているので日本国憲法制度が制定するまでの過程が正しくありません。
- 愛国心は様々なとらえ方があるはずなのに、定義づけされているので、多様な考え方を生徒にさせることができないと思う。
- 平和主義に関する記述について、近隣諸国の危機感をあおり、前文や第九条に基づく考え方では日本を守れないというような一方的な記述が見受けられる。
- 自衛隊と日米安保の重要性だけを重視した記述で外交努力の重要性が記述されていない。
- 人材や権利より公共の福祉、市民の義務の必要性を過大に評価している。

② 英語について

- 英語の教科書で文字の大きさの工夫をしてほしい。
- 広島の子どもたちが学ぶ教科書として、なぜ、現行の教育出版のものを選んだのですか。6 者の中では、原爆ドームの写真がない、Lesson に組み込まれていない等、最も広島の扱いが軽いと感じました。平和について考えさせる内容を含むものを検討してほしい。現在のものを使っていることによって不信感がぬぐえません。

③ 特別な教科 道徳について

- 光村図書は、全体的に「話し合い」を重視し、多文化共生やジェンダー等幅広くとり入れられていると思う。
- いじめ問題について各者重視している様子がありますが、その方向性は「個人の規範意識を育てる」「クラスやグループでの話し合いを通して集団の規範意識（世論）を高める」の 2 つの方向性が見られた。文部科学省は「考え、議論する道徳」の方向性を示しているので、「クラスやグループでの話し合いを通して集団の規範意識（世論）を高める」教材が多い光村図書と日文が良いと思う。特設ページで具体的に理解を深めたり、アンガーマネジメントやグループでの話し合いの方向性を説明したりして、グループでの話し合いの方向を説明したりして、グループでコミュニケーションがとれる工夫がなされている。
- 障がい者に関わる教材に、「あるべき障がい者像」、「障がい者の役割」を刷り込む教材が多くあると感じた。
- 性の多様性を扱う学習をする際、そこに当事者がいるという前提で授業を行うべきである。そのためにも、すべての子どもたちにとってポジティブなロールモデルとなる教材が必要である。